



手話を交えて思いを語る今村さん

東日本大震災で被災した聴覚障害者を追つたドキュメンタリー映画の監督で映像作家の今村彩子さん(35)がJR古屋市駅が28日、JR宇治駅前「ゆめりあ・うじ」で開かれた上映会に参加した。講演で制作時の思い出に触れ、社会を支える絆やつな

がりの大切さを強調した。今村さんは自身も聴覚障害者。震災直後から宮城県を訪れ、2年4ヶ月かけて被災地の取材時の様子を手話で伝え、作品に登場する主人公の同県ろうあ協会長の男性らとの思い出を振り返った。

以前は「命に関わる情報は、格差なく、平等でなければいけない」という一心だったが、聴覚に限らない身体的な障害や言葉の壁、情報入手が困難な状況など、その人が置かれた立場で工夫しても難しい面や足りない面があることを説明した。その上で「近所など周りの人の命をどう守るかを考えた方が現実的」と、人の絆やつながりの大切さを伝えた。撮影を通じて耳が不自由な被災者の近所付き合いの仕方を学び、地元の朝市で高齢者と心を通わせ合えるようになつた工

## 命守る絆、つながり 映像作家が宇治で講演

東日本  
大震災

府内で初公開した後、取材時の様子を手話で伝え、作品に登場する主人公の同県ろうあ協会長の男性らとの思い出を振り返った。

以前は「命に関わる情報は、格差なく、平等でなければいけない」という一心だったが、聴覚に限らない身体的な

ピソードを紹介。「繰り返し会い、コミュニケーションショーンすることが大事。あきらめず続けることが絆を大切にする秘訣」と伝えた。

上映会は宇治市内の9団体でつくる実行委員会が主催し、約90人が参加。今村さんは今後、

自転車で国内を縦断して新作のドキュメンタリーを制作する予定で、参加者から計約3万円のカンパが寄せられた。